
イナGO?フェアリーテイル

マッコリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イナGO?フェアリーテイル

【Nコード】

N3171Y

【作者名】

マツコリ

【あらすじ】

雷門のサッカー部達がフィオーレ王国に飛ばされて、そこでナツ達にあって色々な事をする話です!!
決して、恋愛ものじゃないです!!

キャプテンはどこに行った？

ここは、どこだ

確か…起きて…そこから記憶がないな…

ピカって何か光って…

そんなこと置いとこう…

ちよつとここどこか人に聞か。

???「すみません…ここ、どこですか？」

???「ここ？ここは、フィオーレ王国よー!!」

???「フィオーレ王国？」

???「そうよー!!フィオーレ王国!ところで、あなたは？」

???「あつ!!俺は、神童拓人です」

???「そう、あつ!!あたしは…」

???「おーい!!ルーシィー!!」

ルーシィ「あつ!!あむ!!」

あむ「ナツが仕事行こうっていつてるよ!」

神童「あの…そちらは?」

ルーシイ「ん?ああ、あむね!」

あむ「初めまして!!あむです!!ヨロシクネ!!」

神童「はい!宜しくお願いします。」

あむ「あっ!!敬語使わなくていいよ!!」

神童「何故ですか?」

あむ「だって、神童くん、私より年上そうだもん!!」

神童「でも、あむさんのほうが年上に見えますよ?」

あむ「そうかな?そんな風に見える?ルーシイ」

ルーシイ「見えるよ!!」

神童「?（不思議な人達だな）」

浜野と…もう一人は…？

ルーシィ「ねえ、あむ。」

あむ「？何？」

ルーシィ「仕事って何の仕事？」

あむ「ああ、劇の仕事！！」

ルーシィ「劇？」

あむ「うん！！ナツの魔法で演技したりするの！！良いと思わない？」

ルーシィ「いいかも！！」

神童「あの～仕事って、何ですか？」

ルーシィ「あっ！！ごめん！！あたしたち怪物を倒したりするのよ！！」

あむ「今から、ミラに聞きにくけれども、神童くんも行く？」

神童「えっ！？あっ！！はい！！」

あむ「じゃあ、行こう！！」

ルーシィ「うん！！」

「……」

「……」お帰りー」あむ、ルーシィ」

あむ「ただいまミラ」

ミラ「あら？その子は？」

神童「初めまして。神童拓人といいます。」

ミラ「うちのギルドに入る子なの？」

神童「えっ！？」

あむ「違うよ。ミラ。何か道に迷ったみたいで……」

マスター「帰ってきたか。あむ。」

あむ「あっ！！マスター！！」

マスター「ん？そやつは？ルーシィの知り合いか？」

ルーシィ「違うわよ！！」

「……」ルーシィが拾ってきたんじゃないの？」

「……」食べるの？」

ルーシィ「食べないわよ!~!」

あむ「あれ? ねえ、ハッピー。ナツは?」

ハッピー「出かけてる」

ルーシィ「ナツがアンタを置いて行くって... 珍しいわね...」

あむ「だよね...」

マスター「そうじゃ!~! ワシも、迷子をつれてきてのう...」

神童「迷子?」

マスター「今、フェストとシャルルに任せておるんじやが...」

あむ「マスター!~! あの二人はおもちゃじゃないんですよ!~?」

マスター「そういわれてものう... ちょうどいいやつがあのだつたんじゃ...」

あむ「酷い!~!」

マスター「まあ... 今、呼んでくるからの」

数分後

マスター「待たせたの」

???「よお！！俺、浜野海士！！」

神童「！！浜野！！」

浜野「おお。神童じゃん！！」

神童「他の奴らは？」

浜野「俺もしらねえ…」

神童「そうか…分かった」

浜野「あつ！！あともう一人いる！！」

神童「もう一人？」

???「よお！！俺、円堂守！！」

神童「監督！？」

そこにいたのは、14ぐらいの円堂がいた。

小さい円堂？

円堂「？監督？俺は監督じゃないぞ」

神童「監督じゃない？」

浜野「ちゅーか、身長小さくなってない？」

神童「確かに…髪も変わってるし…」

浜野「どうやって来たんですか？」

円堂「何か目の前が、光って…それで…」

ルーシィ「何かややこしいわね…」

あむ「うん…変わった人…」

???「おーいー！見ろよー！こいつ、スゲエぞー！」

ハッピー「ナツどこ行ってたんだよーオイラを置いて」

あむ「誰？その子？」

ナツ「ん？ああ。こいつはな…えつと…」

神童「松風！！」

松風「！？キャプテン！？浜野先輩も！？」

円堂「誰だ？おまえは？」

松風「監督！？どうして、ここに！？」

神童「松風。これは、監督じゃない」

松風「えっ！？監督じゃない！？」

浜野「そうなんだよ！！」

神童「この円堂さんは、イナズマジャパンの、キャプテンだ」

松風「という事は、世界一になった時の姿ってことですか？」

浜野「そうなんだよ！！」

あむ「あのさ、神童くん達は仲間を探してるんだよね？」

神童「はい。」

あむ「じゃあ、私達も手伝おうか？」

ルーシィ「あっ！！それ良いと思う！！」

あむ「ウェンディもやるでしょ？」

ウェンディ「うん！！」

その、ウエンディという少女は、濃い青色の髪をしていて、長さはあむさんより少し短く、12歳ぐらいの人だった

シャルル「アンタ等、鼻良いもんね…」

ハッピー「どうする？オイラ達もやる？」

シャルル「私は、ウエンディがやるなら…」

あむ「フェストも行くでしょ？」

フェスト「うん！！行く！！」

あむ「ナツも行く？」

ナツ「ああ。行く！！」

ルーシィ「グレイ…ってあれ？グレイは？」

ミラ「仕事よ！」

ルーシィ「えっ！？グレイも仕事！？」

フェスト「エルザも仕事なのに！？」

シャルル「仕方ないわよ」

ウエンディ「今回は、ナツさんと、ルーシィさんとあむと、私と、シャルルとハッピーで行きましょう！！」

あむ「うん!!」

その頃剣城は――

剣城「つたく。ここはどこだよ…」

数分後

剣城「完全に道に迷ったな…」

ふらっ

ばさっ

パチッ

???「気が付いたか!？」

目を開けると、赤色の髪をした女の人がいた。

剣城「えっ。あっはい…」

???「良かった…あんな所で倒れたから…」

剣城「あの…助けてくれてありがとう」

???「君、何であんな所にいたんだ？」

剣城「もともとサッカーしていたのに、目の前が急にピカって、気が付いたらここにいて…」

「???」名前は?」

剣城「剣城京介」

「???」剣城だな。私はエルザ・スカーレットよろしくな」

剣城「よろしく...」

エルザ「そうだ。うちのギルドに来ないか?」

剣城「ギルド?」

エルザ「ああ。楽しい所だぞ。」

その時すでにナツ達はギルドを出ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3171y/>

イナGO?フェアリーテイル

2011年11月16日18時46分発行